

笑って工夫

研究テーマ

商法、特に会社法を研究しています。会社の不祥事がニュースになることがよくありますが、そのような場合、誰がどのような法的責任を負うのか、また不祥事が起きない事前の策や法的な仕組みについて考えています。会社にとって一番利害関係があるのは株主なので株主が持っている権利をうまく使えば会社の健全な経営につながるはずですが、どのように権利を使えばよいか、そのタイミングや効率的な制度も含め、株主に注目した研究をしています。

研究の道へ進んだきっかけ

弁護士になろうと思っていましたが、個別の裁判で聞き取りも大きな目で裁判のゆくえやあるべき法律を研究するほうが世の中の不合理をただすことができると気づいたのがきっかけです。

研究者になってよかったと思うこと

発表した研究論文や裁判に対する批評論文を法の制定に

取り組む法務担当者、裁判官や弁護士などの実務家が読んで、今後の立法、裁判に臨むための準備・資料に使っていると聞く時、やりがいを感じます。また、企業の役員や司法書士、公認会計士・税理士の人たちからコンプライアンス(会社の適切な法令順守)のあり方について助言を求められ、筋道を立てて教えるとき、自分が平日頃研究し、考えていることが役に立っていると感じられて、嬉しく思います。

座右の銘

「笑って工夫」。苦しい時ほど笑って突破口を探す工夫を。あとはひたすら努力。

研究とプライベートの両立で工夫していること

タイトルにもありますが、「笑い」は重要です。「日本笑い学会」(<http://www.nwggk.jp/>)という「笑い」を研究している学会の理事もしているので、大学の教室でもプライベートでも常に「笑い」の効用を考えています。笑うと健康になり、勉強していても記憶力が上がるというデータがあるほどです。私の講義

木俣 由美

KIMATA Yumi

京都産業大学 法学部 教授

専門分野：商法・会社法

略歴

京都大学大学院法学研究科博士後期課程修了。大阪国際大学法政経学部講師・助教授を経て、2003年4月より本学法学部に赴任。2008年4月より教授職に就任。同年9月より1年間、カリフォルニア大バークレー・ロースクールに客員研究員として在籍。

最近の主な論文・評釈

- 「取締役会議事録閲覧・謄写権の「必要性」の要件の検討—株主代表訴訟提起権の濫用規制を参考に—」『企業法の現在—青竹正一先生古稀記念』(信山社)
- 「反対株主の株式買取請求権」『新・法律学の争点シリーズ5 会社法の争点』(有斐閣ジュリスト増刊)
- 「株主平等の原則と株式平等の原則」『企業法の課題と展望—森本暹層記念論文集』(商事法務)
- 「従業員の報酬請求権—少数派取締役に対する報酬不支給・減額事例の分析と試論」『産大法学』第42巻第1号(京都産業大学法学会)
- 「振替株式の買取請求と個別株主通知」『法学教室390号・判例セレクト2012[II]』(有斐閣)
- 「会社と競業をなす者による会計帳簿等閲覧謄写許可申請と拒否事由」『ジュリスト』1398号『平成21年度重要判例解説』(有斐閣)
- 「株式交換完全子会社の株主による株式買取請求に係る「公正な価格」」『私法判例リマックス43号』(日本評論社)



やゼミ室はいつも爆笑の渦(?)、友人との間では、よく川柳を披露し合って笑い、ストレス解消しています。しかし、家でちっとも笑わない私の夫をいかに笑わせるかという難問を抱え、四六時中笑わず研究し続けている点では、研究とプライベートの両立に失敗していると言えるかもしれません。

未来の研究者へ一言

社会科学は、背景となる知識が多ければ多いほどよく、いくらあっても多すぎることはありません。若いうちに、学校の教科書はもちろん、どんな分野の本でも片っ端からどんどん読んで、吸収していただく。もちろん、苦しい勉強と思わず、工夫しながら笑って楽しく読むことが大切です。

My Hobby

お笑い、特に落語の鑑賞。東は柳家小三治さん、西は先般亡くなった桂米朝さん、そしてその一門の、京都出身の落語家である桂塩鯛さんと米二さんが好きです。コントのコンビ・サンドイッチマンもお気に入りです。

